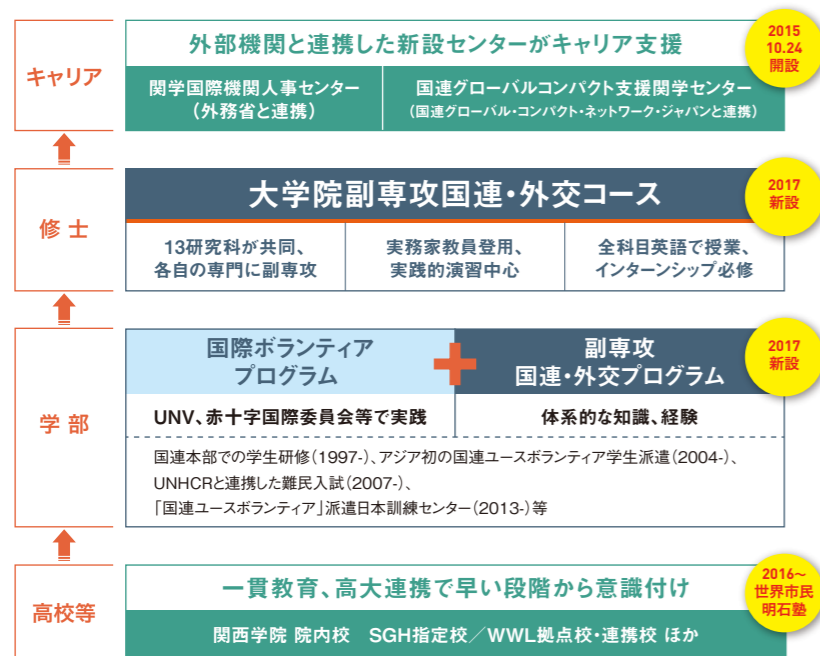




関西学院大学
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

「国連・国際機関等へのゲートウェイ構築」

SDGsの推進をリードする人材を育成



2019年度には全学組織としてSDGs推進本部を立ち上げ、関西学院大学SDGs宣言に基づきながら、教育、研究、経営という大学の営み全体を通じていかに貢献していくか検討を本格化させています。特に、関西学院大学は「国連と連携した教育プログラム」について日本をリードしてきた存

在でもありません。この継続発展強化を通じてSDGsの推進をリードする人材育成をいっそう加速させることを視野に入れていきます。国連と連携したプログラムでSDGsリーダーを育てる

関西学院大学は2004年度、文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」(SGU)に採択されました。SGU事業として展開している「グローバル・アカデミック・ポート構想」の柱の一つが「国連・国際機関へのゲートウェイ構築」です。

関西学院大学は2004年度から、アジアで初めて国連ボランティア計画(UNV)との協定に基づく開発途上国への学生ボランティア派遣を始め、現在は赤十字国際委員会(ICRC)や数多くの国際NGOなども連携を広げています。この「国際ボランティアプログラム」では、学生は約5カ月間にわたり主に開発途上国に派遣され、SDGsの達成に向けて現場の最前線で活動します。2018年度までに35カ国276人を派遣しており(詳細は次ページ参照)、特に「国連ユースボランティア」としての学生派遣は累積100人を超えました。これらの実績を基に、高校と大学(学部)との接続から大学院、そして卒業・修了後まで通貫した教育プログラムで、「世界の公共分野で活躍



国連ユースボランティアとしてタンザニアで活動する学生(前列左から3番目)。SDGs普及のためのイベント企画・運営も主要な業務の1つ。

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

“Mastery for Service” for SDGs Initiatives
～SDGs推進をリードする人材を育てる～

SDGsへの貢献を通して
スクールモットーを実践

関西学院は、1889年にアメリカ人宣教師W・R・ランバスによって創立されました。ミッションステートメントとして、「思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する、創造的かつ有能な世界市民を育む」ことを掲げています。“Mastery for Service”は「奉仕のための練達」と訳され、隣人・社会・世界に仕え、より良い未来を創造していくために自らを鍛えるというあり方を示します。

これらの理念は、「持続可能な開発に向けて我々の社会を変革することを目指すSDGs」と通底しています。そこで、関西学院大学はSDGsに関する取り組みの総称を“Mastery for Service” for SDGs Initiatives」と銘打ち、SDGsの達成に向けての取り組みを、大学を挙げてスクールモットーを実践する機会と捉えて積極的に展開しています。

するグローバルリーダー」を育成することを目指しています。「国連・国際機関へのゲートウェイ構築」の核となるのは、複数の大学院研究科が共同で設置する大学院副専攻「国連・外交コース」です。日本を代表する「ミスター国連」、明石康氏(元国連事務次長)を筆頭に、村田俊一(総合政策学部教授(前国連アジア太平洋経済社会委員会)ESCAP)事務局次長、久木田純氏(前国連児童基金(UNICEF)カザフスタン事務所代表)らを教員として登用。神余隆博(国連・外交統括センター長(元ドイツ大使)・国連日本政府代表部大使)のリードの下、実践的な演習科目を中心としたカリキュラムを編成しています。また、同コースに



TOPICS

「AI活用 for SDGs」
「地球と人類に貢献する平和構築のための学び」

Society 5.0に向けたWWLC(ワールド・ワイド・ラーニング・コンソーシアム)リーディング・プロジェクト

高校生が「AI」を活用してSDGsの課題解決に挑戦!

関西学院高等部は2019年、文部科学省の「WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業」の拠点校に採択されました。Society 5.0の時代に向けて、イノベティブなグローバル人材を育成することを目的とするこの事業において、採択校は文系・理系を問わず各教科などをバランスよく学ぶ教育課程を編成するとともに、国内外の大学、企業や国際機関などが協働して、先進的カリキュラムの研究開発・実践、テーマと関連した高校生国際会議の開催などの高度な学びを提供するための体制整備を進めていくこととなります。

関西学院高等部の構想のメインテーマは「AI活用 for SDGs」。AIの活用によりSDGsの課題を解決できる能力を涵養することを通じて、Society 5.0を牽引し世界で活躍できるビジョンや資質・能力を有したグローバル人材の育成を目指します。

AL(アドバンスラーニング)ネットワーク・プログラム

関西学院・関西学院大学では、関西学院高等部をはじめ全国の連携校で形成する「ALネットワーク」において、高校生が果敢にSDGsの課題解決にチャレンジできるプログラムを提供していきます。

- ① WWL・AI活用人材育成プログラム
- ② SDGs・地域課題など社会課題を解決するための実践的な学びへの支援、STEAM系の「探究・課題研究」への支援(講師派遣など)
- ③ アドバンスプレースメント(単位履修・高大連携科目)
- ④ Harvard College Japan Initiative × 関西学院大学ワークショップ
- ⑤ 高校生公開討論会
- ⑥ 関西学院世界市民明石塾
- ⑦ SGH・WWL × 探究甲子園
- ⑧ 高校生国際交流のつどい
- ⑨ テーマに基づく国際会議



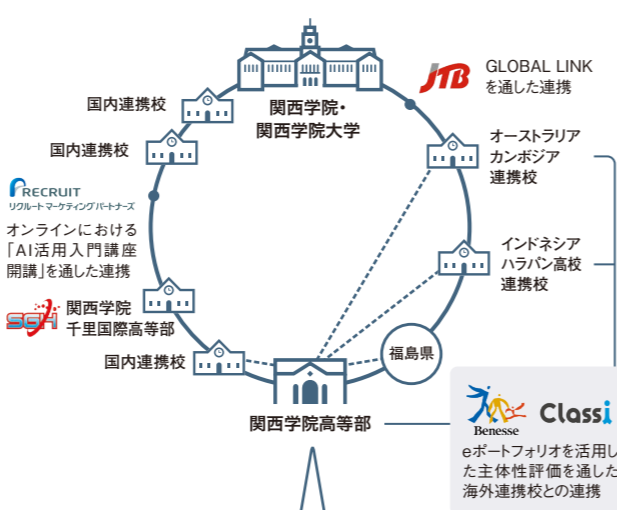
UNIVERSITY INFORMATION

KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

関西学院大学

〒662-8501
兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155
URL: https://www.kwansei.ac.jp

関西学院WWLC構想全体図



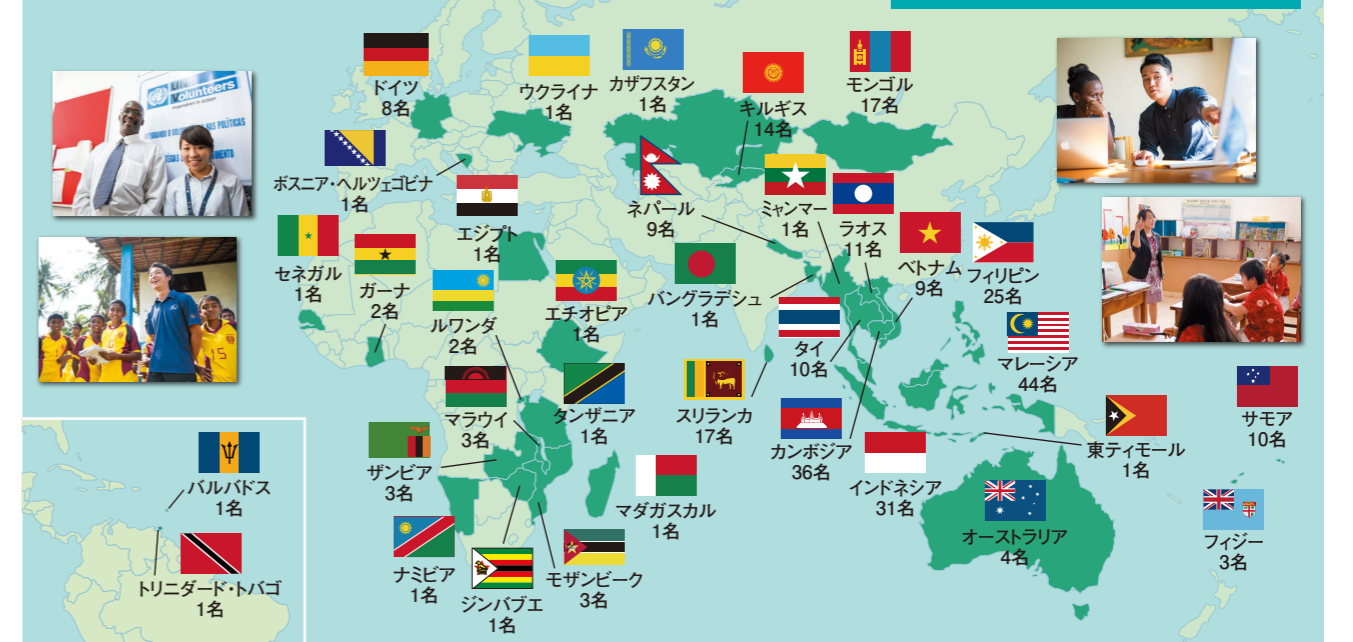
WWLC構築支援事業拠点校
関西学院高等部のWWLC構想

- 1 全学年において文理科目をバランスよく配置し、授業・課外活動双方において効果的にeポートフォリオを活用し、生徒の主体性を育てていく。
- 2 高校1年次は、SGHから継続するGLP(グローバル・リーダープログラム)を継続。AI活用・国際協働・ハンズオンラーニングの基礎を学ぶ。
- 3 高校2年次には、1年次のGLPメンバーを核として、「AI活用演習」「グローバルスタディ」「ハンズオンラーニング」などを必修選択科目として開講し、対象となる生徒を増やす。
- 4 高校3年次には、選択科目として高校2年次の発展形を用意し、さらに対象生徒を増やす。国内・海外でのフィールドスタディなどを踏まえ、連携校とそれぞれの知見を活かし、平和構築に向けた国際シンポジウムを開催する。
- 5 ICT環境を活かし、すべての生徒が授業・課外活動双方において効果的にeポートフォリオを活用し、生徒の主体性を育てていく。
- 6 海外の高等学校とのフィールドスタディを含めた英語での探究活動や、インターナショナルスクールなどの国内外での研修などをカリキュラムの中に体系的に位置付けていく中で、海外大学進学などを含めた多様な進路を視野に入れる。
- 7 関西学院大学による選択科目としてのさまざまな講座提供により、より高度な内容を学びたい高校生が学習できる環境を整備する。その際に一部の科目については、関西学院大学による単位認定も可能とする。

在籍する学生向けには、国連・国際機関におけるインターンシップを提供するほか、「関西学院大学国際機関人事センター」が外務省と連携しながらキャリア支援も行っています。学部生向けにも副専攻「国連・外交プログラム」を提供しています。大学院「国連・外交コース」の教員陣を中心に、国連や外交官としての経験が豊富な教員たちが、学生へのマンツーマンでのコーチングや、授業を通じて国連・外交に関する体系的な知識の涵養、さらには国際ボランティア等への挑戦を通じた実践的な学びと、充実したプログラムを提供しています。加えて、高校との接続も重視しています。国連・国際機関でのキャリアを志すうえで、極めて高い専門的な知識と高い外国語運用能力が必要となるため、可能な限り早期から長期的ビジョンを持って学習に臨むことが望ましいからです。そこで、高校生を対象に明石康塾長の下で集中的に学ぶ「世界市民明石塾」や、国際ボランティア派遣学生などによるワークショップなどを実施しています。

国際ボランティア派遣国一覧
(2004~2018年度)

35カ国276人を派遣



世界市民明石塾

高大接続の一環として、関西学院大学は2016年度から元国連事務次長の明石康教授が塾長を務める「関西学院世界市民明石塾」を開講しています。将来グローバルリーダーとして国際公共分野で活躍したいと考えている全国の高校生が対象で、講師陣には明石教授を筆頭に国連・外交分野の第一線で活躍してきた本学教員、そして世界各地で活躍する現役国連職員たちとそうそうたる顔ぶれが並びます。

2018年度は、24人が参加。「Challenges for SDGs! ~Goal 1: No Poverty~」をテーマに、日英両言語による講義やディスカッション、グループワーク、ディベートなどを通じて学びを深め、最終的に「Statement of youth on poverty reduction and peace」(貧困削減と平和に関する青年の声明)を取りまとめました。

